最終号
Live with a Smile

笑顔で生きる

白山中 学校だより
令和　5年 3月24日

卒業生が旅立ちました

3月7日（木）に、「第74回卒業式」を無事に終えることができました。保護者・来賓の皆様におかれましては、多くの方々にご臨席を賜り、誠にありがとうございました。

厳かな雰囲気の中で行われ、一人ひとりが丁寧な所作で卒業証書を受け取ったり、お辞儀をしたりする様子は本当に素敵でした。式の最後には、何度も練習してきた合唱曲『手紙』を三年ぶりに歌うことができました。こらえきれずに涙を流している卒業生の姿が印象的でした。快晴の青空の下、暖かな春の陽気に包まれ、「わかば（学年目標）」学年の卒業生は、これ以上ない『笑顔』で旅立っていきました。卒業生の皆さんの更なる成長を心よりお祈りしています。

答　辞　（3年B組　坂下 虎太郎 ）　※原稿を一部抜粋、改稿

初めて学生服を着て、白山中学校の門をくぐった入学式。皆、緊張した面持ちで、これからの学校生活への期待と不安を感じているようでした。入学式翌日、突然、新型コロナウイルス感染症による休校が告げられました。活動や会話の制限、黙食、行事の中止など、僕たちはもどかしい日々を過ごしました。他学年との交流が制限される中、行われた体育大会やVIVA白山フェスタなどの行事。先輩方の迫力と個性に圧倒され、様々な行事を成功させていく姿に憧れを抱き、自分たちも将来、白山中学校を引っ張っていけるようになろうと目標をもちました。

2年生の春。先輩としての自覚が芽生えつつありました。ずっと楽しみにしていた稲武野外学習。しかし、告げられたのは、またしても中止のお知らせ。心にぽっかり穴が空いてしまいました。そんな中、先生たちからのうれしい報告。少しでも稲武を感じられるようにと提案された学年レクでした。テーマは「あつまれ幻の森」。暗い体育館の中に明るく灯る手作りのキャンプファイヤーの炎。ステージではじけるそれぞれの個性。それを見る皆の『笑顔』。気分が最高潮で迎えたトーチトワリング。本当に稲武の星空の下でやっているようでした。しかし、楽しい時間はいつまでも続きません。いつかは終わりが来る白山中学校での生活に全力を注ごうと決意した2年生でした。

最初で最後の宿泊行事であった修学旅行。最初は自分だけが楽しめればよいという考えでしたが、意見が衝突するたびに、「皆が楽しくなるためには」と考えるようになりました。大切なのは、限られた環境の中でも楽しさを見つけることだと分かりました。当日、学校でのできごとが嘘のように、皆が『笑顔』で出発しました。待ちに待ったUSJでは、お揃いのカチューシャを買い、アトラクションで絶叫し、おいしいお肉を食べ歩き、お土産を選んでいたらあっという間に集合時間がきてしまいました。この修学旅行は、白山中学校で一番の思い出です。

修学旅行を経験した僕たちは、濃密な日々を過ごし、より信頼できる仲間となっていきました。体育大会では、1年生の時に憧れた先輩たちを超えようと一致団結して練習に取り組み、全員リレーでは、全員が声援を送り、勝敗とは違う一体感を感じました。VIVA白山フェスタは、笑いの絶えない行事となりました。初めて歌う合唱では、練習への取り組み方も分からない状態でのスタートから、最後は「よい合唱にしたい！」「最高の『手紙』を歌いたい！」という気持ちになることができました。皆と一緒に完成させた合唱は、僕の自慢です。

入学当初、先生の数に圧倒され息苦しい生活を予感しましたが、先生たちはフレンドリーでいつも親友のように接してくれました。学年目標は「わかば」。僕や周りの人たちの成長に何が必要かを考える日々が始まりました。先生たちは、常に「考えることの大切さ」を問い続けてくれました。最高の先生。大変お世話になりました。心から感謝しています。

在校生のみなさん。「3年生を送る会」とても楽しかったです。また一つ、大切な思い出が増えました。本当にありがとう。白山中学校で残された時間は、長くはありません。今ある幸せな時間を存分に噛みしめ、周りの人たちと協力しながら、よりよい中学校生活を送ってください。そして、素晴らしい白山中学校を、引き継いでいってください。

（裏へ続く）

今日まで僕を育ててくれた両親へ。一番近くで支えてくれたのは家族です。何をしても見捨てず、しっかり怒ってくれる。勉強を教えてくれる。相談にも乗ってくれる。今日まで本当にありがとう。これからもきっと迷惑をかけることがあるけれど、僕のことを支えてください。よろしくお願いします。

「わかば」学年の皆へ。元気がいっぱいで仲が良く、どんな場面でも自分たちで楽しさを見つけられる学年でした。これ以上ない白山中学校の三年間があったのは、いつも周りに皆の『笑顔』があったからです。あたりまえの日々がなくなると思うと寂しさを感じます。でも、終わりが来るから頑張れる。そのことを学びました。皆、最高です。ありがとう。

僕たち60名は、今日この白山中学校を旅立ちます。学んだことを糧に、次のステージで活躍することを約束します。最後に卒業生を代表し、白山中学校のますますの発展と、感謝の気持ちを申し上げ、答辞といたします。

人権学習発表会　3月17日(金)

会の冒頭では、生徒会の発表があり、後期のスローガンでもあった「BEST」をキーワードとして、人権についての説明がありました。「BESTを尽くす」や「BESTが出た」など、独りよがりのBESTではなく、「**互いのBESTを認め合う**」という言葉がとても印象的でした。

次に、卒業した3年生の発表が映像で行われました。学年目標でもあった「わかば」が、三年間を掛けて成長した様子や『成長』『応援』『人生』と題する先輩たちの生の声が、1・2年生へのメッセージ動画として届けられました。在校生にとっても、今後の成長のために大変貴重な内容でした。

【各学年の発表の様子】

続いて1年生の発表がありました。テーマは「つながり」。入学してからの一年間を振り返るスライドが流された後、学年カラーの青色の襷をつなぎながら、一人ひとりが自分自身を振り返りました。頑張ったことやコミュニケーション活動を通して気付いたこと、来年度の目標など、堂々と発表する姿に大きな成長を感じました。

2年生の発表テーマは「こもれび」。職業学習や3年生を送る会に向けての取り組みを進める上で『Komorebi&Co』という仮想会社を立ち上げ、各部署に分かれて活動した様子が紹介されました。皆さんの可能性は無限大であることや人との関わりの大切さに気付いたことなど、スライドの中で一人ひとりが社員として名刺を渡す様子とともに発表されました。「**『こもれび』とは、誰もがあたたかく過ごせる場所**」という言葉が、人権を大切にすることにもつながるキーワードではないかと感じました。

どの学年も素敵な発表であったと感じるとともに、一人ひとりの人権感覚が着実に豊かになっていることを白山中学校全員で実感することができ、あたたかい気持ちになりました。

人権は「誰もがもっていて、奪うことも奪われることもできない権利」です。その権利を守るには、他者を理解することが必要です。ただ、他者の気持ちというのは、目には見えないものであり、つまるところ自分自身のことではないので、全てを理解することは難しいことだと思います。しかし、だからと言って諦めてしまってはいけません。発表会で皆さんが取り組んだように、言葉で伝えたり、文字で書いたり、ジェスチャーで表現したり、様々なコミュニケーションを通して、できる限りの「**想像力**」を働かせて認め合い、理解しようとする気持ちが大切だと思います。これからも全ての人の『笑顔』を大切にしながら、「笑顔で学び　笑顔で生きる」学校、そして社会を実現していけるよう、今できることを考えて行動していきましょう。